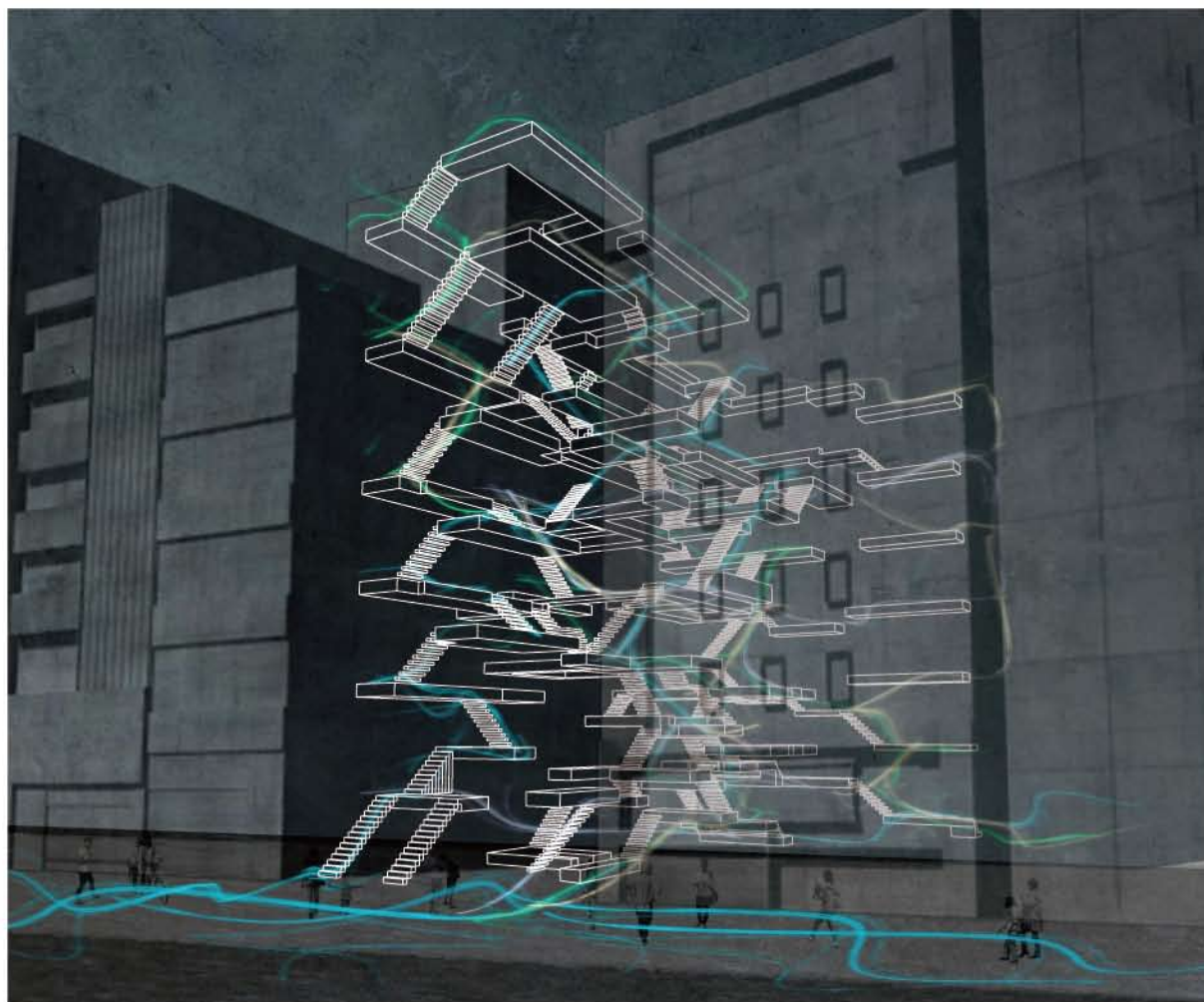


# 保坂賞

Node of the City

慶應義塾大学 システムデザイン工学科  
山下 翔平



## 設計主旨 concept

現代社会における都市の効率化や集中化はその土地で活動する人々の痕跡や空間のアイデンティティーの喪失に繋がる。人々は歴史の継承や文化的背景、場所性を失うことに疑念を抱かないのか。かつて銀座では、路地空間が歩行者ネットワークとして機能し、人々の活動の一部となっていた。路地の機能や特性を保ちながら現代にあわせた建築物を提案することによって、人々は失われつつある歩行者ネットワークに再び命を吹き込むことができるのではないかと？

銀座三丁目のとある敷地に、路地空間を内包した建築物を設計する。幾多のフィールドワークやリサーチを元に、路地空間の形態学的特性と、雰囲気構成する溢れ出しの関係性を考察し、三次元的に空間の連続性を持った商業ビルに応用する。銀座の街歩きに多様性を与え、人々はまた建築に吸い込まれる。

銀座の魅力である路地を、ビルに立体的に組み込む提案だ。路地に影響を与える建物の出っ張り、引っ込み、階段など空間の輪郭について様々な組み合わせを、68個もの路地空間のタイポロジーリサーチとして見せた。提案建物は、路地に対してガラス張りであったが、リサーチで路地に対する開口のあり方や、開口から出て来るモノや気配について示されてないことと関係があるだろう。立体路地の可能性には共感する。路地の怪しげな雰囲気など路地を路地たらしめているものに対する、ロジカルかつフィジカルな分析と新しい提案を、今後の山下君に期待したい。

(講評 保坂 猛)